

第10代網干町長奥本傳吉にまつわる記録が残っている。

網干町議会議員をつとめていた太田覺治郎の『町會誌(大正15年2月～昭和2年2月)』に個人のメモとして残したものであろうが、当時の議会の様子や内容が記録されている。実際には、昭和4年2月までのメモが残っている。

*2年2月24日。

議会開始直後、S議員の町当局への攻撃に対し、奥本町長が辞職し直ちに離席。議場混乱。協議の結果、町長留任調停委員と県庁出張委員を選任。

*翌25日。

午後7時協議会開会。町長辞表を撤回。県庁調査委員の報告を受け、M議員に謝罪の意を表されぬ。午前2時30分開散。(議員の名はイニシャルにしています)

どのようなトラブルがあったのかまではわからないが、町議会あげて対応し、謝罪を含み翌日には收拾している。今の時代にこのスピードで解決ができるものだろうか。それほどに奥本町長の町政への取り組みが受け入れられていたことの表れであろう。

しかし、この数か月後、残念な事が起こる。

*11月26日

午後4時奥本町長死亡ニ付町葬ノ件ニ付町会開会 町葬可決予算五百円

*12月3日 協議会開会 葬式費用決算六百円

その後12月19日には、弔慰金について相応と思われる金額を議員が出し合い、平均すると3700円となったことから、遺族に3000円、記念碑(胸像?石碑?委員に託す)として1000円と可決され、記念碑委員が選ばれたと記録されている。

徳望と手腕を発揮しながら、享年58歳で突然生涯を終えた奥本町長の頌徳碑。このように議会で話し合い、網干町として石碑を建立するに至ったのである。

網干歴史講座会員 御津町 植田 実加子



『網干町史』より



太田覺治郎が残した町會誌